

# 2022年3月期 決算説明会

第98期:(2021年4月1日~2022年3月31日)

2022年5月11日

太平洋互業株式会社

# 目次



- 1. 2021年度実績
- 2. 2022年度通期予想
- 3. 中期経営計画「OCEAN-22」
- 4. サステナビリティ経営

#### 本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、日本および海外の経済情勢や当社の関連する業界動向、為替変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想と大幅に異なる可能性があります。

# 経営環境の変化と今後の課題



#### 感染防止・雇用・生産体制維持を第一義にGLOCALに足元固め

## ■リスク対策

- ・コロナ感染拡大
- ・半導体等供給不足による生産変動、原材料の高騰、物流停滞
- ・福島沖地震、サイバー攻撃、ウクライナ情勢、円安

## ■コロナ禍での取り組み

- ・改善、原価低減、固定費削減の継続
- ・サプライチェーンの維持

・雇用調整助成金の活用

・社員と家族の感染防止

## ■今後の課題

- ・リスクの長期化
- ・急な生産変動・挽回生産に向けた人財確保・体制準備

# 1-1 2021年度 連結業績



## 生産変動影響あるも、通期は収益体質改善、物量増加により過去最高益

(億円、%)

						(1/0/1 3 ( 7 0 )		
	2020年度		202	1年度	前期比			
	4Q実績	通期実績	4 Q実績	通期実績	4 Q 増減	実績 増減率	通期 増減	実績 増減率
売上高	423	1,504	444	1,644	+20	+4.8	+140	+9.4
営業利益	40	89	29	過去最高 107	△10	△25.9	+17	+19.9
営業利益率	9.5%	6.0%	6.7%	6.5%	△2.8P	_	+0.5P	_
経常利益	53	112	45	過去最高 146	△7	△14.4	+33	+30.3
経常利益率	12.6%	7.5%	10.3%	8.9%	△2.3P	_	+1.4P	<del>-</del>
親会社株主に帰属する当期純利益	37	79	24	過去最高 98	△13	△35.4	+18	+22.8
当期純利益率	8.8%	5.3%	5.4%	6.0%	△3.4P	_	+0.7P	<del>-</del>
平均為替レート(米ドル)	104.7円	105.4円	115.4円	112.1円	+10.7円	_	+6.7円	-

<sup>※2021</sup>年度より収益認識会計基準を適用しております。売上高への影響金額は以下の通りです。利益への影響は軽微です。

売上高は、客先受給品の売上高と売上原価の相殺表示により45億円減少、金型費用回収の一括認識により10億円増加しております。

# 1-2 連結売上高 増減要因



## 顧客の生産変動に追従し、販売物量増

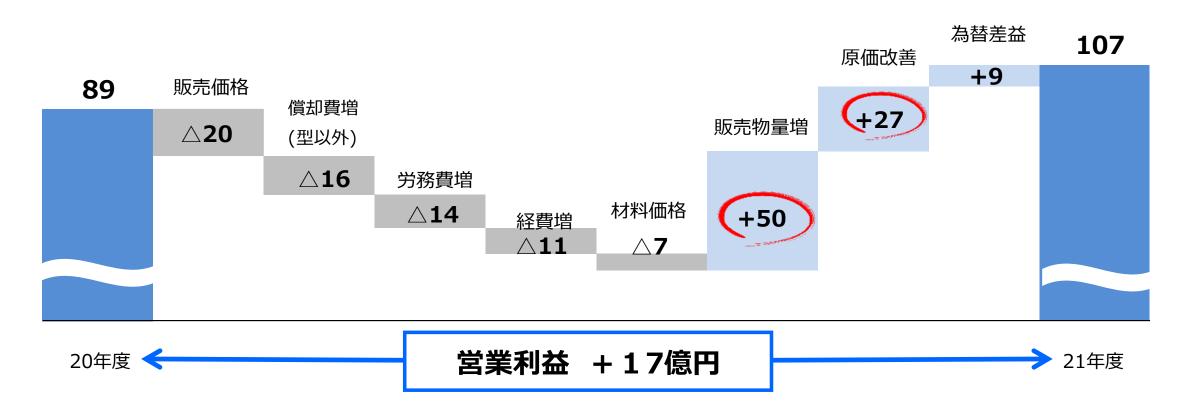


# 1-3 連結営業利益 増減要因



## 販売回復と原価改善により、過去最高益を達成

単位: 億円



# 1-4 連結事業別セグメント



## プレス・樹脂、バルブともに増収・増益

(億円、%)

		売上高	営業利益						
	20年度	21年度	前其	前期比		20年度 21年度		前期比	
	実績	実績	増減	増減率	実績	実績	増減	増減率	
プレス・樹脂	1,045	1,142	+97	+9.4	39	49	+10	+25.8	
(収益認識適用の影響)		<sup>※1</sup> (△35)							
営業利益率					3.7%	4.3%	+0.6P		
バルブ	457	499	+42	+9.3	49	58	+8	+16.6	
(収益認識適用の影響)		<sup>*2</sup> (0)							
営業利益率					10.9%	11.7%	+0.8P		

<sup>※1 2021</sup>年度より収益認識会計基準を適用しております。売上高への影響金額(内数)は上記の通りです。 客先受給品の売上高と原価の相殺表示により45億円減少、金型費用回収の一括認識により10億円増加を含みます。利益への影響は軽微です。

<sup>※ 2</sup> 売上高への影響金額(内数)は上記の通りです。利益への影響は軽微です。

# 1-5 連結地域別セグメント



## 日本は減収・増益(収益認識の影響を除けば、実質増収)、欧米は増収・減益、アジアは増収・増益

(億円、%)

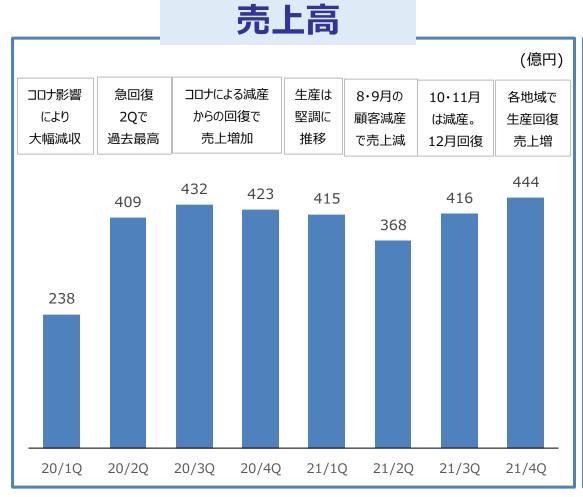
		売上高	営業利益						
	20年度	21年度	前其	前期比		20年度 21年度		前期比	
	実績	実績	増減	増減率	実績	実績	増減	増減率	
日本	702	687	△15	△2.2	51	61	+9	+18.8	
(収益認識適用の影響)		<sup>※1</sup> (△35)							
営業利益率					7.4%	8.9%	+1.5P		
欧米	523	612	+89	+17.0	15	13	△1	△12.2	
営業利益率					3.0%	2.2%	△0.8P		
アジア	277	344	+66	+24.0	18	31	+12	+66.7	
営業利益率					6.8%	9.2%	+2.4P		

<sup>※1 2021</sup>年度より収益認識会計基準を適用しております。売上高への影響金額(内数)は上記の通りです。利益への影響は軽微です。

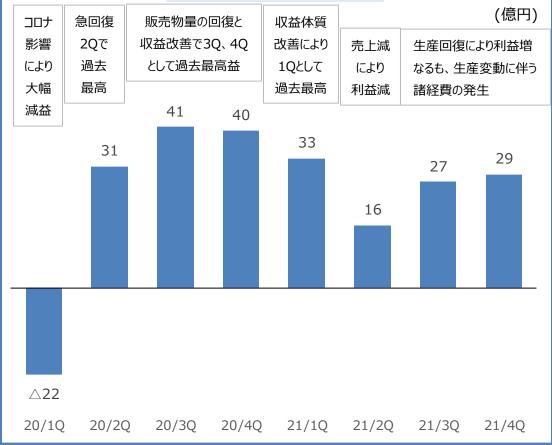
# 1-6 四半期別 連結業績推移



## 21年度第2四半期は減産影響あるも、後半は回復傾向



## 営業利益





- 1. 2021年度実績
- 2. 2022年度通期予想
- 3. 中期経営計画「OCEAN-22」
- 4. サステナビリティ経営

## 2-1 2022年度 連結業績予想



## 不確定要素が多いものの、上期から下期にかけ緩やかに生産回復すると想定

(億円、%)

	2021	年度	202	22年度	前期比				
	2Q累計	通期	2Q累計	通期	2Q <u></u>	累計	通	通期	
	実績	実績	予想	予想	増減	増減率	増減	増減率	
売上高	784	1,644	905	<sup>*1</sup> 1,780	+120	15.4%	+135	8.2%	
営業利益	50	107	45	125	<b>)</b> △5	△10.4%	+17	16.2%	
営業利益率	6.4%	6.5%	5.0%	7.0%	△1.4P	_	+0.5P	_	
経常利益	57	146	50	140	△7	△13.8%	△6	△4.2%	
経常利益率	7.4%	8.9%	5.5%	7.9%	△1.9P	_	△1.0P	_	
※2 当期純利益	43	98	35	100	△8	△20.1%	+1	2.0%	
ROE	_	8.1%	_	7.5%	_	_	△0.6P	_	
ROA(営業利益ベース)	_	4.6%	_	5.0%	_	_	+0.4P	_	
一株当り純資産	_	2,138円	_	2,254円	_	_	+116円	5.4%	
平均為替レート(米ドル)	109.9円	112.1円	120.0円	120.0円	10.1円	_	7.9円	_	

<sup>※1 2021</sup>年度と比較し、2022年度第3四半期よりプレス部材有償受給化の増加により96億円の売上の減少を見込みます。利益への影響はありません。

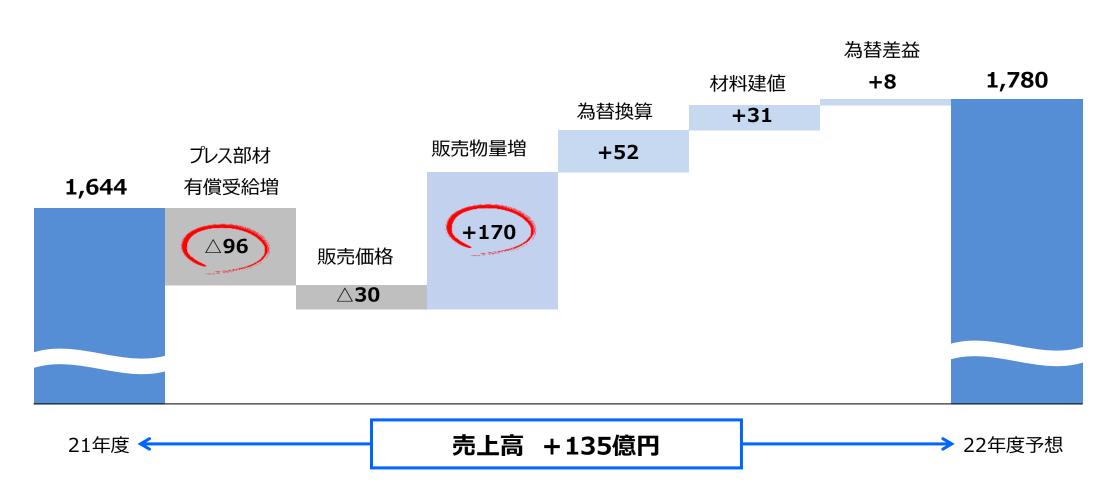
<sup>※2</sup> 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益です。

# 2-2 通期 連結売上高 増減要因



## プレス部材の有償受給化による見かけの減少あるも、販売物量増加により売上高は増加

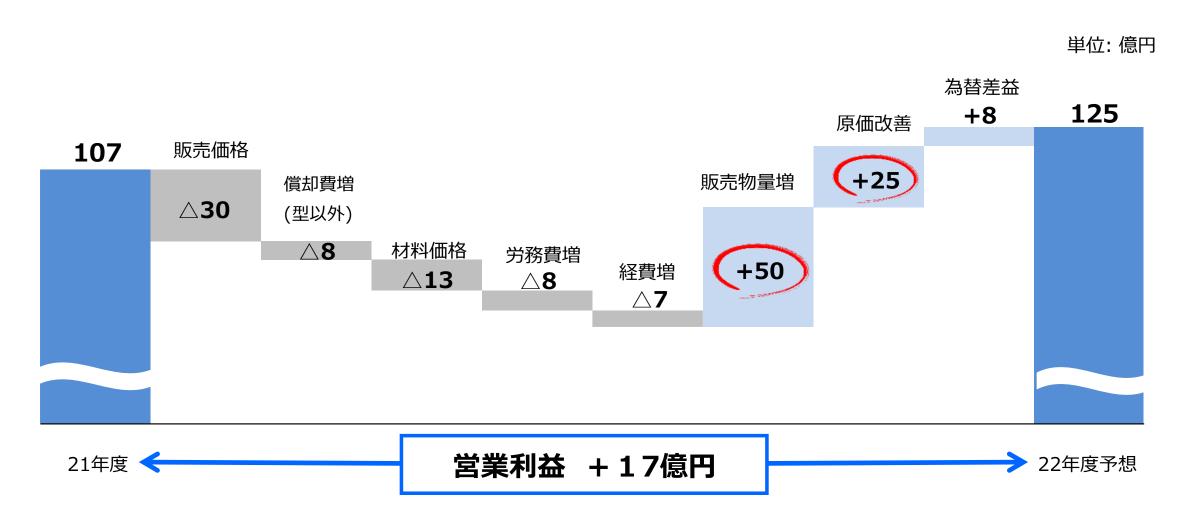
単位: 億円



# 2-3 通期 連結営業利益 増減要因



## 販売の回復を想定、継続的な原価改善で増益を見込む



# 2-4 通期 連結事業別セグメント



## プレス・樹脂、バルブともに増収増益を見込む

(億円、%)

		売上高	5					
	21年度	22年度	前其	前期比		22年度	前其	<b>阴比</b>
	実績	予想	増減	増減率	実績	予想	増減	増減率
プレス・樹脂	1,142	1,227	+84	+7.4	49	66	+16	+34.1
(収益認識適用の影響)	<sup>*1</sup> (△35)	(△131)	(△96)					
営業利益率					4.3%	5.4%	+1.1P	
バルブ	499	550	+50	+10.0	58	59	+0	+1.2
(収益認識適用の影響)	<sup>*2</sup> (0)	(0)	(0)					
営業利益率					11.7%	10.7%	△1.0P	

※1 2021年度より収益認識会計基準を適用しております。売上高への影響金額(内数)は上記の通りです。

2021年度:金型費用回収の一括認識により10億円増加、客先受給品の売上高と原価の相殺表示により45億円減少しました。利益への影響は軽微です。

2022年度: 客先受給品の売上高と原価の相殺表示により131億円減少を見込みます。利益への影響は軽微です。

※2 売上高および、利益への影響は軽微です。

# 2-5 通期 連結地域別セグメント



## 日本、欧米、アジアいずれも増収増益を見込む

(億円、%)

		売上高	営業利益					
	21年度	22年度	前其	前期比		22年度	22年度 前期比	
	実績	予想	増減	増減率	実績	予想	増減	増減率
日本	687	698	+10	+1.5	61	64	+2	+4.1
(収益認識適用の影響)	<sup>※1</sup> (△35)	(△131)	(△96)					
営業利益率					8.9%	9.2%	+0.3P	
欧米	612	652	+39	+6.4	13	19	+5	+38.1
営業利益率					2.2%	2.9%	+0.7P	
アジア	344	430	+85	+24.8	31	37	+5	+16.8
営業利益率					9.2%	8.6%	△0.6P	

※1 2021年度より収益認識会計基準を適用しております。売上高への影響金額(内数)は上記の通りです。

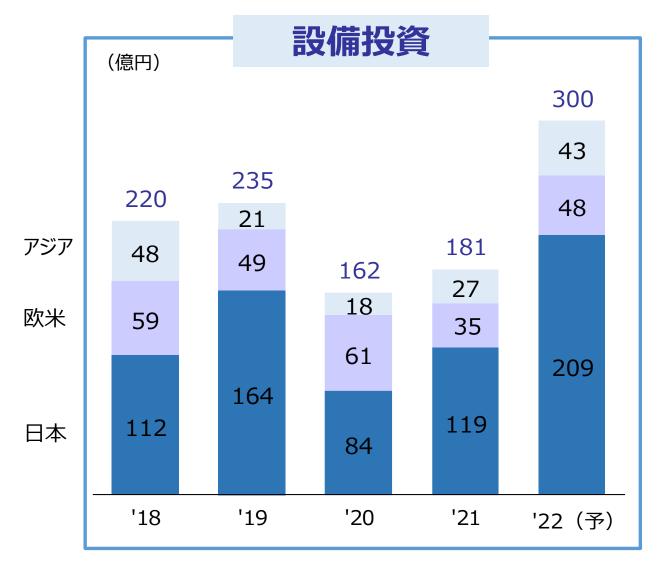
2021年度:金型費用回収の一括認識により10億円増加、客先受給品の売上高と原価の相殺表示により45億円減少しました。利益への影響は軽微です。

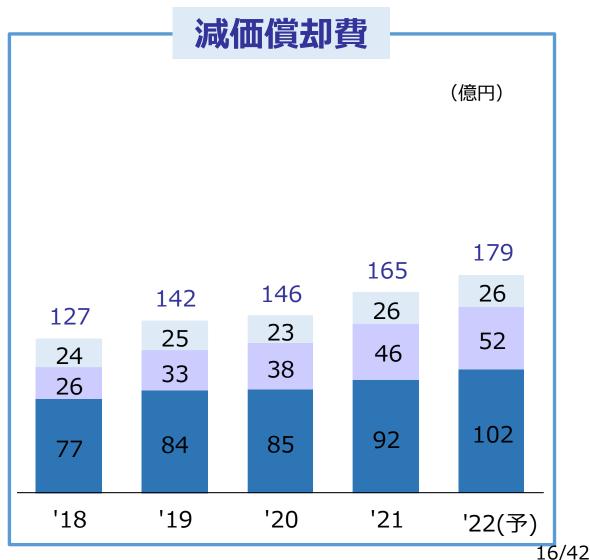
2022年度: 客先受給品の売上高と原価の相殺表示により131億円減少を見込みます。利益への影響は軽微です。

# 2-6 連結設備投資·減価償却費



## 22年度は将来の成長のための投資を実施

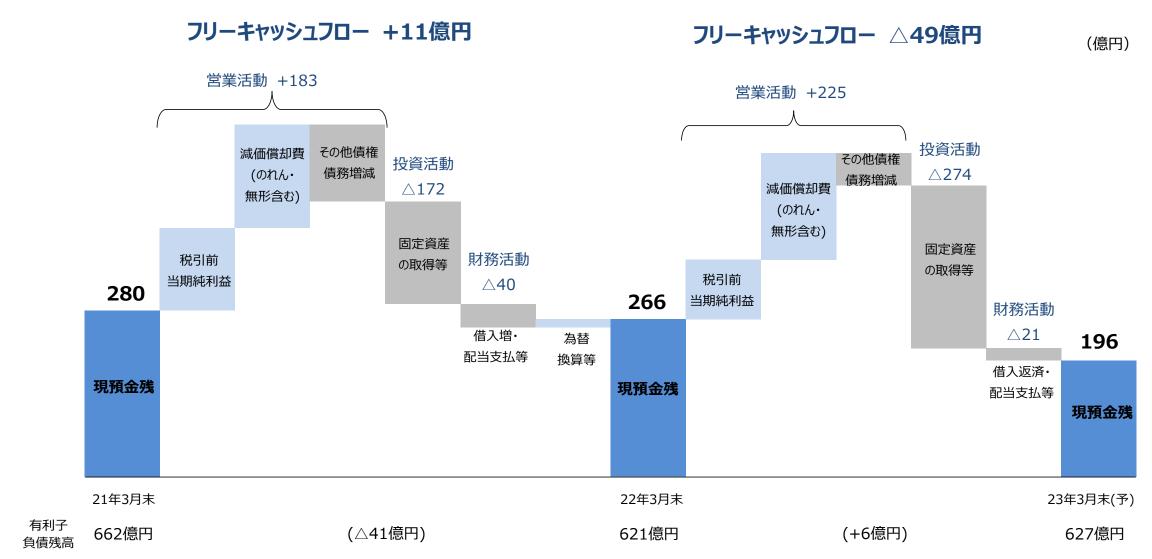




# 2-7 連結キャッシュフロー



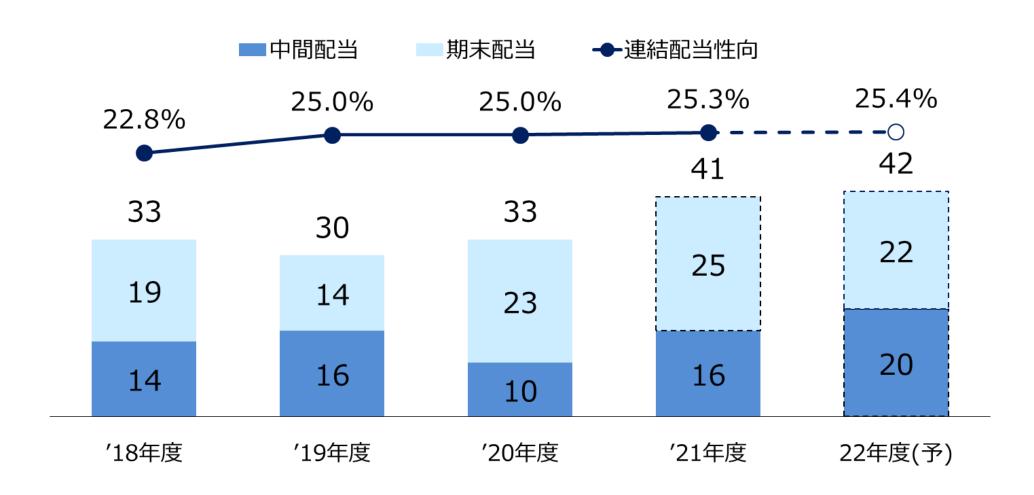
## グループ内キャッシュマネジメント強化で、効率的な資金運用を実施



# 2-8 株主還元 配当



## 21年度は増益に伴い増配、22年度も安定的な配当を継続



# 2-9 株主還元 自己株式取得



10億円の自己株式の取得枠を設定、資本効率を重視した経営を継続

取得総額:10億円(上限)

取得株数:130万株(上限)

取得方法:市場買付

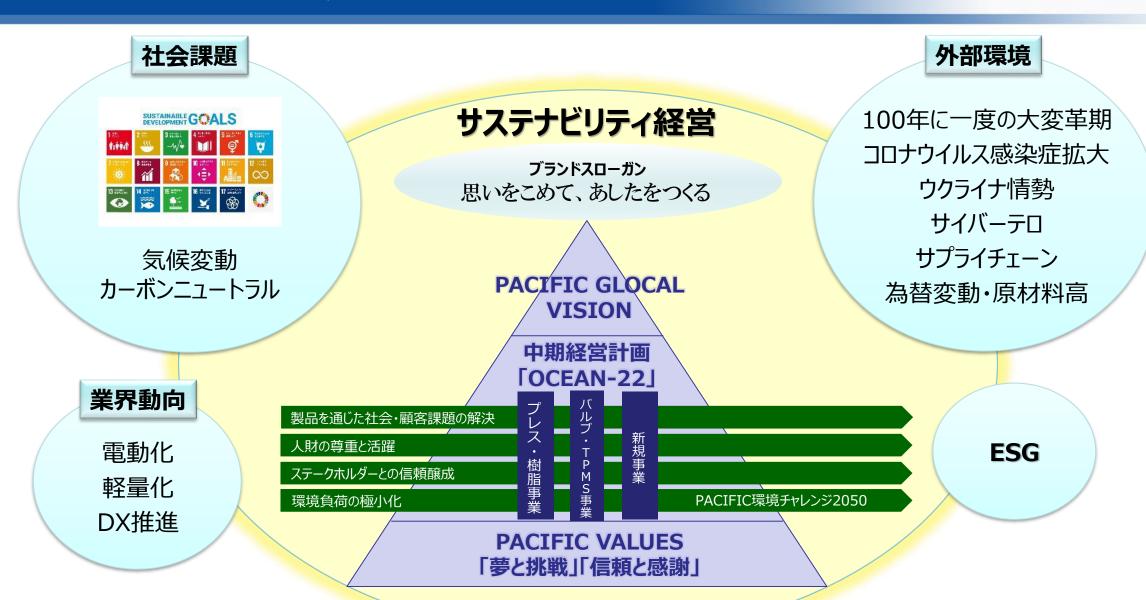
取得期間:2022年5月2日~8月31日



- 1. 2021年度実績
- 2. 2022年度通期予想
- 3. 中期経営計画「OCEAN-22」
- 4. サステナビリティ経営

## 3-1 当社を取り巻く経営環境





## 3-2 「OCEAN-22」を縦糸に、SDGs活動を横糸に紡ぐ





## 思いをこめて、あしたをつくる PACIFIC GLOCAL VISION

PACIFIC環境チャレンジ2050 OCEAN-22 業活動 SDGs·ESG ステークホルダーとの信頼醸成 新製品 プレス・樹脂 バルブ製品 事業 製品事業 事業 製品を通じた社会・顧客課題の解決 環境負荷の極小化 人財の尊重と活躍

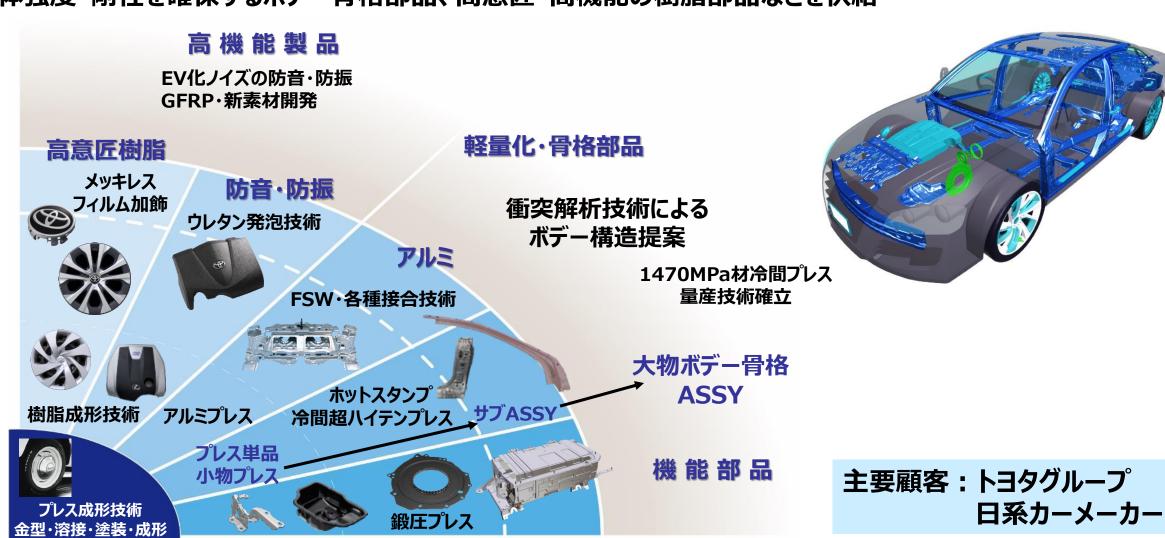
PACIFIC VALUES 「夢と挑戦」「信頼と感謝」

# 3-3 プレス・樹脂事業の主要製品と技術領域



#### 車体強度・剛性を確保するボデー骨格部品、高意匠・高機能の樹脂部品などを供給

コア技術



Now

*Future* 

23/42

# 3-4 バルブ事業の主要製品と技術領域



#### 創業製品のバルブコアで培った流体シール技術をコア技術として各種バルブを開発・製造



ニーズを探し個別開発・提案 新分野への拡大



環境・省エネ・電動化の 市場ニーズに則した機能製品創出

#### 制御機器バルブ

OE向けトップシェア維持

ニーズに合わせ個別開発・提案

新冷媒向け製品

圧力·流量制御·電動制御技術

タイヤバルブ・カーエアコンバルブで 圧倒的地位を維持

タイヤバルブ

Schraderとのシナジー創出

#### タイヤバルブ

- ・シェア 国内100%、海外約50%
- ・主要顧客 国内外タイヤメーカー

#### 制御機器バルブ

- ・チャージバルブ・リリーフバルブなど
- ・主要顧客 カーエアコン用 コンプレッサーメーカー、配管メーカー

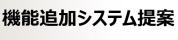
#### 各種産業用バルブ

- ・産業機械用、航空機用など
- ·Schrader事業取得により獲得





バリエーション展開 次世代製品開発





アルミダイカスト製品 (韓国生産)



センシング・電子制御・無線技術

Now

**Future** 

社会インフラとのコネクテッド

コア技術

# 3-5 カーボンニュートラルを踏まえた注力分野



CN、電動化に伴うニーズの変化を成長機会と捉え、開発を推進

力 電動化 拡大 LCA評価

・エンジン音が無くなり 新たなノイズ発生

・部品の軽量化

製造工程での

CO2排出量低減

・モーター化による 各種システム変更

## 注力分野と重点施策

- ・超ハイテンプレス成形の領域拡大
- •構造解析•性能評価技術向上
- ・ホットスタンプから冷間への置換提案

防振

- ・発泡ウレタン技術の発展
- ・電動化ノイズ対策製品開発

流体制御

- ・BEV・FCEV向けバルブ開発
- ・ヒートポンプシステム用 制御バルブ開発・拡販

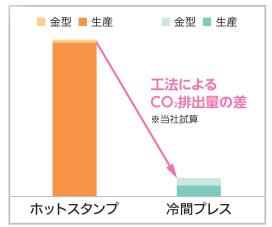
# 3-6 超ハイテンの重点施策

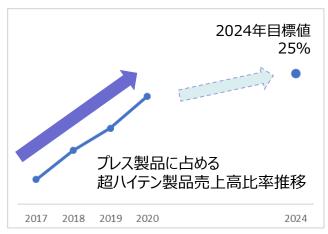


#### ボデー構造解析技術により、衝突安全性と車体軽量化に貢献

## 骨格プレス部品の領域拡大

- ・ホットスタンプから冷間プレスへの置き換え提案推進
- ·1470MPa材 冷間成形·量産技術開発
- ・大物ボデー骨格ASSY部品の拡充

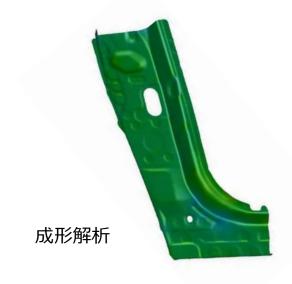




## 構造解析·提案力強化

- ·衝突解析·成形解析/評価
- ・解析モデル拡大、精度向上
- ・ボデー構造の最適提案
- ・開発リードタイムの短縮





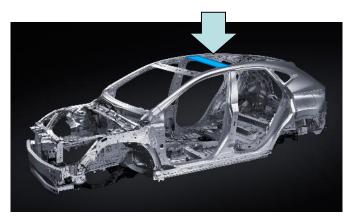
# 3-7 新製品トピックス



#### 戦略的に新技術・新製品を開発、順次採用・量産化を推進

## 1470MPa材 冷間プレス部品採用

- ・レクサスNX ルーフセンターリインフォースメントに採用
- ・従来比22%減の軽量化
- ・他車型への適用拡大



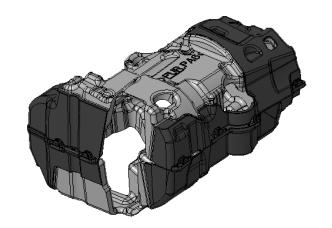
軽量化により、重心高低減、操縦安定性の向上に寄与



ルーフセンターリインフォースメント

## 電動コンプレッサー用防音カバー採用

- ・ウレタン発泡成形技術による防音樹脂製品
- ・エンジン音がなくなり新しいノイズ発生
- ・電動化でニーズが高まるノイズ対策での 採用をめざし製品開発推進



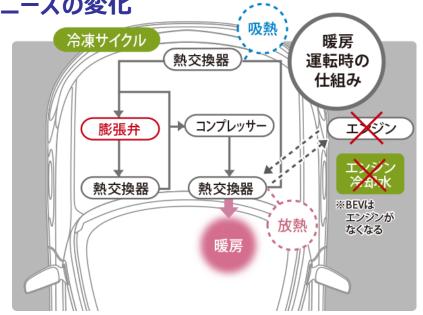
電動コンプレッサー用防音カバー

# 3-8 電動化に向けた制御バルブ開発・拡販



#### 電動化の進展に向けた、ヒートポンプカーエアコン用制御バルブの開発

市場ニーズの変化



- ・ヒートポンプカーエアコンへの移行で、 電動膨張弁など 制御バルブのニーズ変化
- ・複数バルブを統合し高機能化



BEV向け電動膨張弁

#### 開発·販売体制

- ・SCHRADER事業と一体化して開発
- ・日・米・欧の顧客ニーズを把握しシナジー創出、 グローバル販売

# 3-9 新分野の技術開発



#### コア技術を活かし新製品開発、ソリューションも含めた新事業展開を推進

## 社会課題解決に繋がる新技術・新製品開発





モニタリング需要 データビジネス







※GDPガイドライン: 医薬品の適正流通基準

重要な工程を監視・記録することで ※HACCP管理手法:

安全性を確保する衛牛管理手法

《活用分野》

## 医薬品輸送

※GDPガイドライン

## 食品輸送

※HACCP管理手法

畜産業界

IT·產業界

アプリ・クラウド・A I

# 3-10 センシング技術を応用した新製品



#### 物流ソリューションに新たな価値を提供

温度

照度

湿度

振動

## マルチセンシングロガー「e-WAVES」

位置

気圧

- ・温度、湿度、振動、位置、気圧、照度のセンシングが可能
- ・医薬品・食料品輸送時の状況をリアルタイムで確認



Γe-WAVES I

コロナワクチン輸送・ 保管 (-80℃) 状態管理のほか、 医薬品・食品輸送 など活用中

・製品紹介ホームページ: https://www.pacific-ind.co.jp/iot/ewaves/

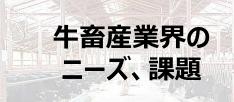
# 3-11 センシング技術を応用した新製品



作業省力化と経営効率化で、良質な牛の生育に貢献、牛農家の抱える課題を解決

## 牛体調モニタリング「CAPSULE SENSE」





- ▶省力化
- ▶生產性向上
- ▶疾病検知

1戸当たり飼養頭数増加、後継者不足

受胎率の低下による生産性低下

病傷事故等による経済損失

TPMSの センシング技術、 ICT技術で解決

「CAPSULE SENSE Iシステム概要



アプリ画面



・センサー搭載したカプセルが牛の胃内で 定期的に測定した結果を無線送信

国内で年間

600億円の損失

- ・センシングデータをクラウドで蓄積・分析、 体調変化の兆候を検知し、通知
- ・発情・分娩・疾病を検知
  - → 生産性向上、経済損失低減

2022年5月末 販売開始予定

・発情・分娩・疾病すべてを検知可能!



- 1. 2021年度実績
- 2. 2022年度通期予想
- 3. 中期経営計画「OCEAN-22」
- 4. サステナビリティ経営

# 4-1 サステナビリティの重要課題



#### 長期ビジョンと関連する、4つのテーマと15のマテリアリティを特定

Vision:持続可能な社会に向けて、コア技術を活かし、新事業・新製品・新技術を提供し続ける企業

■製品を通じた社会・顧客課題の解決

持続可能なモビリティ社会と豊かな暮らしへの貢献 モビリティの安全性向上 環境配慮製品の開発













#### ■環境負荷の極小化

気候変動の緩和および適応 持続可能な資源の利用 水資源の保全













Vision:ステークホルダーに信頼され、地域社会に根ざし、 共存・発展できる真のGLOCAL企業

■ステークホルダーとの信頼醸成

企業倫理・コンプライアンス 責任ある調達 顧客満足度の向上 地域社会の発展















Vision: 社員の新しい発想や挑戦を大切にし、 仕事と生活の調和が実感できる企業

■人財の尊重と活躍

人権の尊重 安定した雇用と働きやすい職場 従業員の安全と健康 人財育成と挑戦できる風土の醸成 ダイバーシティ&インクルージョン









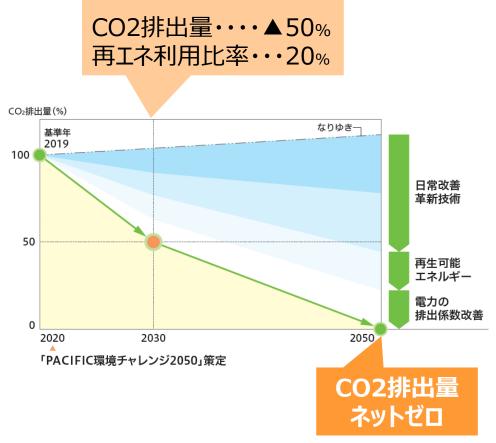


# 4-2 環境負荷極小化の取組み



#### 「PACIFIC環境チャレンジ2050」でマイルストーンを定めて活動を推進

	マテリアリティ	SDGs	項目	<b>現状</b> (20年度実績)	2030年 目標	2050年 目標
カーボンニュートラル	気候変動の 緩和及び 適応	13 XRXBIC ARROGANE 7 2346-6344X 61879-9X	CO <sub>2</sub> 排出量	85.8(kt)	2019年度比 <b>50%</b> 削減	ネットゼロ
環境負荷 極小化	持続可能な 資源の利用	12 SASTE SPANSE	廃棄物 排出量	2,539(t)	2019年度比 国内 60%削減 海外 30%削減	極小化
	水資源の 保全	6 安全な水とトイン を世界中に	水使用量	1,645 (km³)	適正利用	極小化



2030年中期目標

# 4-3 カーボンニュートラルに向けた取組み



#### 3つの切り口でエネルギー低減策を洗い出し、CO2排出量削減目標達成をめざす

#### 1. 日常改善活動による省エネ

## 2. 高効率設備導入による省エネ



小型貫流型ボイラー導入により、 燃料を重油から都市ガスへ転換

CO2排出量削減量 年間:約680t



電力受電を特別高圧化により CO2排出量削減

CO2排出量削減量 年間:約1,000t



カチオン電着塗装設備のコンパクト化により、 省エネと生産性向上

CO2排出量削減量 年間:約320t

# 4-4 カーボンニュートラルに向けた取組み



#### 3つの切り口でエネルギー低減策を洗い出し、CO2排出量削減目標達成をめざす

3. 再生可能エネルギーの活用

## 国内(九州・東北)で再エネ電力100%を達成



太陽光パネルを設置した栗原工場

## ・外部購入電力の再エネ電力へ切り替え(2022年4月)

年間CO2排出削減量: 東北2工場 **2,300**トン

九州工場 1,500トン

## ·太陽光発電導入状況:国内7工場、海外2工場

台湾子会社(2021年8月)、栗原工場(2022年1月)

PPA方式により太陽光パネル設置

## 4-5 環境負荷の極小化:持続可能な資源の利用

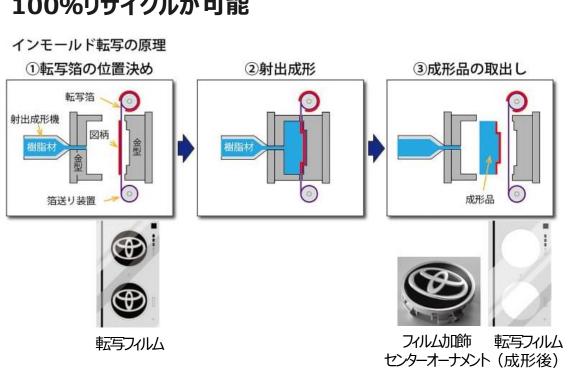


## 循環型社会の実現をめざし、Recycle=再利用、廃棄物削減に取り組む

## 廃プラスチックの再資源化

・当社独自の**フィルム加飾技術**によるめっきレス化で

#### 100%リサイクルが可能



## スクラップゴムのリサイクル

・タイヤバルブ成形時に発生するスクラップゴムを、 ゴム配合技術により再生ゴム化し、再利用



# 4-6 製品を通じた社会・顧客課題の解決

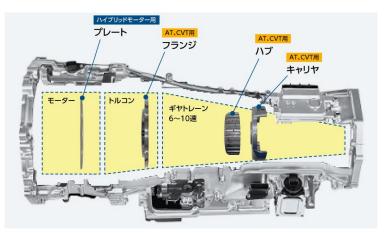


#### コスト低減、製造工程、LCAでの環境負荷低減により顧客満足度向上

顧客からの表彰件数:27件(2021年度グローバル実績)

## 鍛圧製品の皮膜処理工程廃止

- ・加工プロセスを革新し、皮膜処理廃止を実現 CO2排出・廃液発生をゼロ化、原価低減
- ・金型・設備メンテナンス工数も低減。顧客より優秀賞受賞



自動車のATやハイブリッド関連ユニット向け 高機能部品として採用



キツヤ

## GFRPエンジンアンダーカバー採用

- ・従来比76%減の軽量化実現
- ・「プロジェクト表彰 |を受賞
- ・日刊工業新聞社 超モノづくり部品大賞 「モビリティー関連部品賞」受賞



オフロードでのボデー下部保護により優れた走破性に寄与



GFRPエンジンアンダーカバー

# 4-7 人財の尊重と活躍



従業員エンゲージメント向上の取組みを推進し、人的資本の価値を最大化

企業価値向上

人的資本の最大化

Vision: 社員の新しい発想や 挑戦を大切にし、 仕事と生活の調和が 実感できる企業

働きがい・誇り 生産性向上

多様な人財によるイノベーション創出

人財のレベルアップ

職場環境の整備

人財育成

ダイバーシティ& インクルージョン 挑戦できる風土の醸成

人権の尊重

ワークライフ バランスの実現 働きやすい職場づくり

ものづくりは人づくり

# 4-8 サステナビリティ経営の取り組み



#### 「OCEAN-22」取り組み成果として外部機関からも評価

## 情報開示取組み

- ·2021年5月 TCFD賛同
- 気候変動影響の戦略への統合と情報開示を推進
- ・サステナビリティレポート2021発行
- ・各種非財務情報のホームページ開示
- ・コーポレートサイトリニューアル

https://www.pacific-ind.co.jp/







## 外部機関からの評価

- ·「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」 構成銘柄選定
- ・「健康経営優良法人2022(大規模法人部門)」認定
- ・CDP「サプライヤー・エンゲージメント評価」にて2年連続「リーダー・ボード」に認定
- ・Ecovadisメダル:「ブロンズ」認定



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index





2021

# 4-9 新工場建設について



#### 事業拡大とカーボンニュートラルを見据えた新工場を建設、中長期でコスト競争力を強化

## 《グローバルマザー工場》

- ・ものづくりの効率を追求
- ・従業員がいきいきと働くことのできる環境づくり



新工場外観イメージ

所在地 : 岐阜県大垣市

生産品目:自動車用プレス製品

敷地面積:約80,000㎡

延床面積:約43,000㎡(プレス・溶接工場)

稼働開始: 2023年 年央

#### 《CO2削減施策》

- ·工場建物仕様
- ·工場原動力
- ·高効率設備
- ・物流システム
- 再生可能エネルギー



# 思いをこめて、あしたをつくる

Passion in Creating Tomorrow